



西新潟中央病院

## NST NEWS 第55号

NST: Nutrition Support Team

発行日：2018年11月6日

担当：NST委員会

編集：栄養管理室

連絡先：内線1304

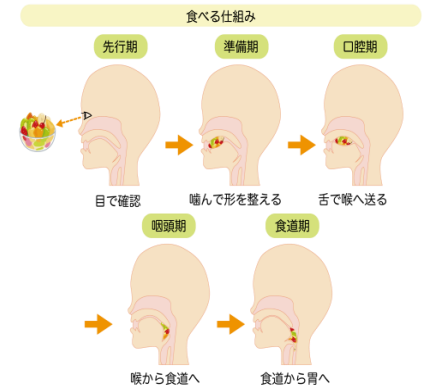
### NSTミニレクチャー第34回 摂食・嚥下障害 ～食べるということ～

皆さんは「食べる」という事にどのような意味を感じているでしょうか？

人間にとって「食べる」という行為は基本的欲求であり、日常生活の中の大きな楽しみです。多くの方にとって「口から食べる」という行為は特別なことではないと思います。それは今まで当たり前のようにあった習慣だからだと思います。美味しいものを食べても、その喜びが貴重で特別な事と感じる方は少ないと思います。

摂食・嚥下障害になると、今まで当然のようにしていた「食べる」という行為が、様々な形で制限されたり、場合によっては食べることそのものが困難になり、食べる楽しみを大きく制限します。

私たちが食事を摂る時は、食べ物を認識し、口腔へ取り込み、咀嚼をし、食品を飲み込みやすい形に整えます。更に食品をのどへ送り込み、飲み込み、食道へと移送します。この一連の流れが摂食・嚥下ですが、この流れの1箇所でも障害されれば摂食・嚥下障害となります。摂食・嚥下障害になると脱水や栄養不良などを生じる事があります。また、食品が気管に入り（誤嚥）、誤嚥性肺炎や窒息を引き起こし身体に重大な影響を及ぼすこともあり、摂食・嚥下障害は命に関わる重大な障害といえます。



### STと摂食嚥下機能障害の関わり

STは食事に関する様々な評価・訓練を行います。口腔や咽頭、食道へ至るまでの各機能の評価、食事形態の検討、摂取時の姿勢の検討、口腔・咽頭機能の訓練、自助具の選択などを行います。

摂食・嚥下障害には様々な症状がありますが、咽頭や食道の様子は外からでは確認できないため、ムセが無い誤嚥（不顕性誤嚥）のような症状は、身体所見のみで正確に評価することは困難です。

そのためSTでは毎週水曜日に嚥下造影検査（VF）を、さらに第一・第三週の金曜日には嚥下内視鏡検査（VE）を実施しています。嚥下内視鏡検査は今年の9月に導入されたばかりの検査ですが、鼻からファイバーを挿入し直接咽頭の状態を見ることが出来る検査です。VFでは分かりづらかった、食品の咽頭内での細かい動きや、粘膜・唾液の状態が直視下で観察が可能です。STが行う評価・訓練に加え、これらの検査を行う事で更に正確で、個々人に適した対応を取ることが可能になります。



摂食・嚥下障害は、100人いれば100通りの状態があり、正確な評価と対応が求められます。

「これくらい大丈夫だろう。」という考えでは誤嚥性肺炎や窒息事故に繋がるリスクもありますし、必要以上の制限を設けると倫理的な問題が生じます。

日頃接している患者さんで、食事に関して気になる方がいる場合は、是非STに声を掛けて頂ければと思います。その方に合った対応を検討するため、VFやVEを検討してみたいかでしょうか。

（文責 言語聴覚士 佐藤愛彩美）

**編集後記** 栄養指導の際、STさんにアドバイスをいただくことも多々あります。食事形態の選択や摂食時の注意点など、患者さんが安全・安心して食事が摂れるよう多職種でのサポートが必須です。

摂食嚥下で困ったときはSTさんに相談しましょう！！

＜栄養管理室 曾我＞